

2021. 3. 16
新潟日報
朝刊 20面

上越支社

〒943-8545
上越市木田 1-2-4
代表 025(523)9700
報道部 (523)9725
FAX (523)9734

糸魚川支局

〒941-0056
糸魚川市
一の宮 2-1-13
025(552)0465
FAX (552)1900

上越

日経懇
政経懇
上越

今冬、おけるの伝達村山秀民がどを入手知が十課題を定例会

新潟日報政経懇話会上越市の3月例会が15日、上越市のデュオ・セレッツで開催、新潟大学院客員教授の別府茂氏が「災害多発時代の危機管理、食からの視点」と題して講演した。写真。二次的な健康被害を防ぐためにも食の備えが重要だとし、「備蓄した食品を消費しながら買い足す『ローリングストック』の考え方を持ってほしい」と述べた。

新潟大大学院客員教授 別府 茂氏

災害食の備え見直しを



備蓄が大事だが、従来の非常食は賞味期限の長さが重要だ。一、普段の食品を災害時にも食べられる「災害食」があつたりした。避難所への支援物資は炭水化物が多い。栄養の偏りは健康悪化の原因になる。被災者には赤ちゃんや持病のある人もいて多様な食のニーズがある。

と災害を切り分けず、慣れた食品のローリングストックなどで備えをつなぐことが大事だ。企業が事業を継続するためにも、職場の備えも見直してほしい。

一、首都直下地震や南海トラフ地震の発生が想定されている。発生時には日本海側の本県は支援拠点として大きな役割を果たす。本県は近年、水害や地震など多くの災害を経験した。災害食の認証制度も広がっている中、教訓を地域資源として捉えることで、防災関連の産業を育成していくこともできるだろう。

新潟日報政経懇話会上越市の申し込みは事務局(新潟日報上越支社業務部内)、025(523)9700。

漂着物アートを手掛けしているのは、リーアン・スプラットさん(50)。13年前、夫婦で長野県に移住。度々訪れていた糸魚川の海を気に入り、3年

制作
援

を後押しする「マリノフレンズプロジェクト」がスタートした。リーアンさんの自宅に、赤色のプラスチックごみを組み合わせた神作の作品を飾る展示会が20日から、上越市の「無印良品 直江津」で開かれる。

プロジェクトのPRのため、プロジェクト活動を

